

1. 公共ホール・劇場におけるボランティアの導入状況と実態

響・舞台の実践の場)」の三段階を年各1回開催している(1回は数日から10日程度)。館の主催事業なので、特に「いべんとスタッフ」に限った受講にはなっておらず、一般受講者もいる。

○ 研修方法・内容

- 技術研修の方法としては、劇場・ホール内部で研修を行う場合が最も多いが、外部研修への参加や照明・音響などに関する専門資格取得を奨励しているところもあり、そのための補助を出している事例もある*7。
- 劇場・ホール内部で行われる研修では、既に現場で活動しているボランティア(研修の既修了生)、近隣都市の専門家、舞台設備納入業者などによる講義・実践のほか、他ホール・劇場の視察なども行われているようである。
- また、技術的な研修の他に、ボランティアの考え方や劇場・ホールの活動の方向性などオリエンテーション的なものもみられる。
- 企画・制作型ボランティアの場合には、特別な研修を行っている事例はほとんどないが、「たんば田園交響ホール」では、“ボランティア・スタッフは、感性の向上のためどの公演も無料で鑑賞できる。”という方法を採用している。

⑧ 保険について

ボランティア参加者の保険については、特に「ウラ方」業務を行っているボランティアのほとんどが何らかの保険に加入しているが、どのケースにもあてはまる保険はなく、各々業務内容を保険会社と個別に相談して対応しているようである。

- 「舞台研究会うらかた(喜多方プラザ文化センター)」では、年間20回以内の業務を対象とし、20人までに対応できる保険(年間24万円)にホールとして加入している。10年前にはこのような保険はなかったため、民間保険会社に新たな商品をつくってもらった。
- 「大阪府立青少年会館・プラネットステーション」では、各イベント20名の補償に対応できる、“イベント保険”に加入している。
- 「春日市ふれあい文化センター」では、イベントごとに最大15人まで対応できる保険に加入。春日市民は全員がボランティア保険に加入しているが、それでは対応できないということで、内容を更に保険会社と相談して決めた。
- 「武生国際音楽祭推進会議」のように、業務が短期間に集中的に増えるものでは、“音楽祭開催中”に限って“ボランティア保険”を掛けている。
- 一方、「いまだて芸術館」のAEスタッフは、いまだて町の職員が加入している市町村共済組合のなかの団体保険という位置づけで、“非常勤公務員災害補償制度(損害保険)”に加入している。

*7 「たんば田園交響ホール」の「ステージオペレータークラブ」では、講座の受講料については10000円まで、交通費のみの場合は50%までの補助、観劇等の視察研修は、1人年1回、50%(上限は3000円)までがクラブから補助される。